



愛知県議会議員

杉浦 正和

発行元：杉浦正和事務所



6月議会一般質問

「障害者の運転免許取得をもっと身近に！現状と求められるサポート」

日本には約936万人の身体障害者が存在し、雇用機会の不足やバリアフリーの未整備などの課題があります。小人症の息子の運転免許取得を目指す母親の相談をきっかけに、障害者の運転補助装置や免許取得の現状と課題を学びました。多くの教習所が障害者に対応しておらず、高い経費や経験のある指導員の育成が課題です。再度教習が必要な中途障害者への支援も重要です。

1. 免許センターでの障害者理解の取組みと広報について

障害者に対する理解を深めるための取組みや、運転免許取得に関する広報活動について、警察本部長にお伺いします。

<警察本部長答弁>

障害のある方々に応じた多様な運転補助装置の必要性があり、企業と情報交換を行い理解を深めています。今後も最新知識を習得し、相談対応職員の教育を進めていきます。

2. 運転免許取得後の支援について

事故や病気で障害者となった方への免許条件変更にかかる取得費用などの支援が必要です。当局の対応についてお伺いします。

<福祉局長答弁>

事故や病気で障害者となった方への免許取得費用支援について、2023年4月時点で県内54市町村のうち48市町が助成していますが、対象詳細は不明です。今年度からは支給対象の調査と情報共有、好事例の発信を進めていきます。

3. 教習所の対応強化について

障害者対応の指導員の育成や、車両改造部品を扱う民間事業者との連携強化、教習所のバリアフリー化を進めるための県の取組みについてお伺いします。

<福祉局長答弁>本県では障害者の社会参加支援のため「福祉ガイドブック」を作成していますが、県内48校の教習所のうち16校しか障害者に対応していません。対応教習所を増やすため、課題整理や先進事例の収集を行い、教習所協会と連携して増加策を研究しています。今後、障害者団体と意見交換しながら県警察とも連携し、障害者が運転免許を取得しやすい環境を整えます。

「愛知の誇り、うずら産業が危機！誤飲事故で揺れる業界の未来は？」

今年2月26日、福岡県みやま市で学校給食に出されたうずら卵が喉に詰まり、小学1年生の児童が亡くなる事故が起きました。

この事故の影響で、九州や関西地方の学校給食でうずら卵の使用が控えられるようになり、3月には関西以西の地域で1学期分の注文がキャンセルされました。これにより、豊橋市の生産者たちは困難な状況に直面しています。養鶏農協によると、生卵には影響がないものの、水煮卵の出荷が停止し、在庫が増えています。昨年からの値上げも影響しており、賞味期限が近づく商品価値が下がり、安く販売せざるを得ません。養鶏農協の製品の約3割が学校給食用で、在庫が増えると生産を減らすためにうずらを減らす必要があります。元の規模に戻すには最短でも半年かかります。

うずら卵のPRと販路拡大について

愛知県としては、うずら卵の栄養価や調理の多様性を強調するPR活動をどのように展開していくのでしょうか。地元の特産品や料理を通じて、うずら卵の魅力を広めるイベントやキャンペーンをどのように実施していくのか、お聞かせください。

<知事答弁>

うずら卵の消費拡大のため、コンビニや量販店に働きかけ、新商品を試験販売中です。新たな市場開拓に向け、愛知県では国内外での販路拡大や健康食品としての価値向上に取り組んでいます。大相撲名古屋場所での優勝力士への副賞として、うずら卵の水煮10,000個を贈呈し、全国にPRします。



杉浦氏

振興ただず中村氏
昨年度は豊橋市による田城や一川宿などを巡るスタンプラリー、東三河広域連合による首都圏での物産展での開催などに補助した。体験型観光では、昨年11月にアワードを愛好家向けイベントを開催。このイベントでは、漂流釣りなどを紹介し、2日間4万9千人が来場した。今年度も1月に開催する予定とした。大規模災害時における

イベント開催へ

賃貸型応急住宅（みなし仮設住宅）についても聞いた。対応についても聞いた。県成田清康建築局長は「賃貸型応急住宅は所有者の制度理解が大切。県宅地建物取引業協会などと協定を締結し、制度周知に取り組んでいる。県、市町村、協定締結団体が連携し、円滑な賃貸型応急住宅の提供ができるよう取り組んでいる」と、豊安精防安全局長は「被災者一人ひとりの被災状況や生活状況の課題等を把握し、きめ細かな支援を継続的に実施する体制の整備に努める」とした。

昨年度の情報

豊橋市議会6月定例会は16日、引き続き一般質問があり、井上憲史氏（公明）、安谷秀樹氏（同）、土田徹郎・警察本部長は

「障害のある方の運転免許取得が低い状況の中、障害者の運転免許取得のための取り組みなどについて了した。鎌原信司氏（自民）、齋藤啓氏（共産）、川原元則氏（自民）」



2024年(令和6年)6月20日(木曜日) 東河愛知 14

県議会

2月に福岡県みやま市の小学1年生の男子児童が、学校給食を喉に詰まらせて死亡。うずら卵が原因とみられている。産地・豊橋市選出の杉浦正和議員（自民）は質問で、関西以西を中心に給食での使用見合わせが増えていると指摘。県内の生産農家で在庫が積み上がっているとして、「大産地として大変な事態だ」と苦境を訴えた。

大村秀知知事は、7月の大相撲名古屋場所知事賞として、ウズラの卵を贈呈することを明らかにし、「こうした機会を通じて、県産のウズラ卵を全国にもPRしていく」と述べた。

ウズラの卵はカロリーやタンパク質、脂質が高く、ビタミンやミネラルも豊富。手ごたえがよいと栄養

優勝力士にウズラ卵1万個

名古屋場所 需要低迷で全国PR

県議会6月定例会は19日、本会議を再開し、7人が一般質問した。県内産が全国シェアの6割以上を占めるウズラの卵について、県は学校給食での死亡事故を受けて国内の需要が低迷しているとして、大相撲名古屋場所の優勝力士にウズラの卵1万個を贈るなど、消費拡大に力を入れていると示した。（安福晋一郎）

県内版

（ゆれきぬで）
フードコートで座った席の床に食べ物が落ちてしまった。孫はあは、こぼしちゃった

県議会

県産のウズラ卵の提供

視

コロナ禍明け、円高の影響で、一般消費はなかなか回復しない。日高章（以上自民）、黒田太郎（あいち民主）は量販店・飲食業への使用を働きかけ、消費拡大を図りたいと訴えた。